

# 被災地を忘れない

もなく1年半。いまだ爪痕の残る現地で、環境整備活動や住民との交流に当たる。

被災地を忘れない。東日本大震災の復興支援のため、県内3団体が派遣する市民ボランティアたちが23日、相次いで宮城、岩手県入りする。発生から間

## 住民と交流、花植栽



中西事務局長（左）から激励を受ける日赤県支部の市民ボランティア

### 日赤県支部 37人

日赤県支部は22日、岡山赤十字病院（岡山市北区青江）で出発式を開き、学生や会社員らボランティア37人（18〜66歳）を前に、同支部の中西一議事務局長が「岡山は被災地

を忘れていないというメッセージを届けてほしい」と激励した。一行は、岩手県中部・遠野市のNPO法人「遠野まきこネット」の協力で、25日まで陸前高田、釜石市、大槌

町などで活動。同支部によると、主に市街地のがれきと民家の土砂撤去だった支援ニーズは、仮設住宅周辺の清掃や住民との交流、津波で建物が流された場所への花の植栽など

に移行しているという。友人と参加する県立大1年寺島瑞稀さん（19）は「復興への道のりは長く、継続した支援が必要だと思う。被災者に笑顔になってもらえるような活動をしたい」と話した。同支部は昨年3月から宮城、岩手両県に市

民ボランティアを派遣しており、今回が11回目。一方、岡山経済同友会が募った大学生ボランティア約50人も22日、大槌町向け出発した。23日から3日間、津波で浸水した大槌中の片付けなどに取り組む。（舟越俊司）

本社HPに動画

### 岡山後楽LC 11人

## 防災学び献花も



壮行式で抱負を述べる学生ボランティアら

岡山後楽ライオンズの壮行式を岡山市内でクラブ（LC）は22日、開いた。23日から4日間、被災住民と交流するほか、防災などにつ

いて学ぶ。メンバーは、岡山理科大の学生と教授、LC会員の計11人。岩手県陸前高田市、宮城県気仙沼市などを訪ね、被災時の様子や被害状況などの説明を現地LC会員から受ける。夏祭りの会場設営や、84人が犠牲になった同県石巻市立大川小で献花も行う予定。同大4年高木俊輔さん（21）は「被災地で多くのことを学び、多くの人に伝えたい」と話した。同LCのボランティア派遣は昨年に続き2回目。（吉尾夏紀）